

発行

平成 30 年 6 月 9 日

相模原市文化財調査・普及員

広報グループ

(第 2 版)

文化庁指定
文化財愛護
シンボルマーク

両手のひらと日本
建築伝統の組物を
イメージしたもの

～「さねさし」とは、相模の枕詞です～

橋本地区の文化財・史跡巡り

平成 29 年 (2017) 11 月 22 日に橋本の歴史を知る会の阿部明子氏の案内により橋本駅～神明大神宮～香福寺～徳本念仏塔～秋葉大権現～瑞光寺～牛久保家長屋門～橋本宿～両国橋・横町橋～境川～寿橋～橋本公民館・橋本駅の 3 時間ほどの文化財・史跡巡りを致しました。

私たち東部班の近くでありながら、これらの文化財・史跡を訪ねる機会はなかったのですが、阿部氏の丁寧な、そして様々なエピソードも挟みながらの案内に引き込まれてしまいました。中でも印象深かった所を紹介致しますので、ご興味のある方は是非訪ねてみていただきたいと思います。

香福寺は国道 16 号線と県道 505 号線の交わる角にある臨済宗建長寺派の寺院です (写真 1)。開山は 1400 年頃で本尊は地藏菩薩です。山門と鐘楼は共に江戸時代に建てられました。県道 505 号線から入る参道の両側にはめずらしい垣根のく竹穂垣 > があります。この垣根を作る職人さんは国内に数人だけという希少な垣根です。

山門を出て国道 16 号線側には徳本念仏塔 (市有形民俗文化財) や秋葉大権現 (火伏せの神様) が祀られています (写真 2)。秋葉大権現は、天保 12 年 (1841) に境川沿いの民家から出火した火事から香福寺を守ったと伝えられています。

瑞光寺は、高乗寺 (八王子) の末寺で山号を橋本山という曹洞宗の寺院です (写真 3)。天正 14 年 (1586) に開山され本尊は釈迦如来です。境内には樹齢 600 年といわれるカヤの古木があります。

江戸時代には寺子屋が開かれ、明治 6 年 (1873) には旭小学校 (明治 36 年 (1903) 開校) の前身ともいえる本然学舎ほんねんが開校されました。山門の手前には開校の記念碑があります。

旭小学校の校名にはエピソードがあり、校名をめぐって村会で 2 月 8 日の夜遅くまで議論しましたが決まらず、9 日の朝日を見た村長が九の字と日の字を組み合わせて旭ではどうかと提案し、議員の賛同を得て校名が決まったと伝わっています。

(東部班 岡崎)

目 次	
・橋本地区の文化財・史跡巡り …	P 1
・埋もれた文化財を訪ねてー津久井の三ヶ木文化財探訪ー後篇 …	P 2
・磯部の庚申塔群 ……………	P 3
・上九沢・下九沢地域の文化財巡り……………	P 4



写真 1 香福寺



写真 2 秋葉大権現



写真 3 瑞光寺



写真 4 本然学舎記念碑

埋もれた文化財を訪ねて—津久井の三ヶ木文化財探訪— 後篇

平成 29 年 (2017) 6 月 27 日に実施した津久井班企画による三ヶ木文化財探訪の後篇をご報告します (前篇は「さねさし」37 号参照)。

④長成寺の焼魂碑。富岡製糸場の時代、明治 14 年 (1881)、三ヶ木の有力者が、開拓者精神で製糸工場の操業に乗り出そうとしたが、開業の日にボイラーが爆発。尊い 13 名の乙女たちが犠牲になる。言わば、悲劇の産業遺産である。

⑤落合の里と坂。かつて商家や木賃宿が軒を並べた落合の渡しにつながる坂道。往年栄えて人馬の絶えないところであったが、今は、「幾年ふるさときてみれば～」の詩情が漂う必見の場所です。

⑥三ヶ木の昔々と三太物語講話。青木茂の「三太物語」の世界は、美しい道志川の風景を舞台に、純粋な少年少女が織りなす善意と友情、花荻先生、素朴な大人たちの愉快なストーリーが展開する。その映画撮影時に、エキストラで出演されたご本人から、ご厚意で臨場感あるお話を伺うことが出来ました。



写真 5 道志川の清流

水車が回る道志川沿いの昔の風景や出来事、道志川の淵への飛び込み。また、三ヶ木でも撮影された戦争への鎮魂「ビルマの豎琴」にも協力したそうである。

⑦三太旅館と三太物語文学碑。青木茂が揮毫した三太物語文学碑と鮎など生き物の鎮魂碑がある。その珠玉の言葉が素晴らしい。

⑧青山取水口沈殿池。横浜市水道局青山水源事務所内には、道志川の水を横浜へ送るために建設された明治時代の取水口や沈殿池が、現在も保存されています。

三太物語には、忘れてしまったり、失われてしまった自然との共存、助け合い、良き伝統や人情が、そこかしこにちりばめられている世界が描かれ、環境破壊、差別、いじめ、パワハラに象徴される現代の社会病理の解決の糸口がここにあるような気がします。今の学生さんや若い人には、ぜひ「三太物語」を読んで、美しい道志川と文化財を訪ねてほしい。勿論、団塊の世代にもお薦めです。

今回の文化財探訪を通じて、路傍の文化財と地元の人とのふれあい、語り部という無形の文化財の存在などを強く感じました。それらは博物館に展示された無機的な文化財からは、到底感じられないものです。

(津久井班 高木)

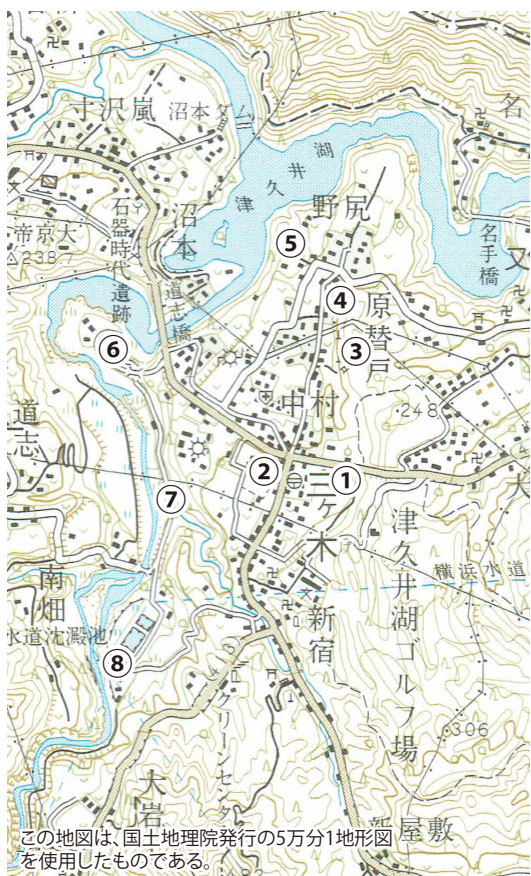


図 1 探訪場所

磯部の庚申塔群

国指定史跡勝坂遺跡がある南区磯部地区、県道46号線の新磯小学校入口の交差点を西に向かって曲がった所に庚申塔群があります（写真6）。左側の石垣の高台の道路際に、小型の同じ大きさの角柱形文字塔が34基、一列に並んでいるのを見ることが出来ます。庚申塔が多数並んでいる景観について博物館の学芸員に伺ったところ、「地元は道路工事の際、ここに集めたといっているが、この場所が磯部の渡しから勝坂集落に入る道筋で、この場所に造立された可能性もある。」とのことでした。

同じ交差点の東南側には、大型の円頭角柱形の庚申塔があります（写真7）。正面には「青面金剛」、上の台座には祝いの席で踊る三番叟さんぼそうを踊っているような三猿像（写真8）、下の台座には村として造立した意味で「搥村中」と彫られています。

平成16年（2004）の博物館の企画展の準備段階で既存のデータを基に、博物館が旧市域の石仏調査を行い、1,617基の石仏が確認されています。石仏の種類別では庚申塔が一番多く、216基確認されており、磯部地区が87基と飛びぬけて多いことが分かりました。

庚申信仰は、道教の教えが、日本に取り入れられ、江戸時代に庶民まで広がった民間信仰です。人間の体の中に三戸さんしという虫がいて、60日ごとに訪れる庚申の日の夜に、人間の体の中から抜けだし、天帝にその人の罪業を告げ、人の寿命を縮めるといいます。そこで人々は、講というグループを作り、庚申の日に集まって、青面金剛像の掛け軸を祀り経を

唱えたり、飲食しながらおしゃべりしたりして、三戸の虫が体内より出ないように寝ずに過ごすことで長生きを願ったのです。年6～7回、3～5年続けて、一区切りとして講として庚申塔を建てました。

南部班の平成29年（2017）度事業として、磯部地区の庚申塔を調査しました。結果、①磯部地区の9箇所に集中していること、②高さ50cm前後の角柱文字塔が多いこと、③正面に「庚申塔」側面に「明治五年」、「明治五年壬申春祭」と彫られているなどの特徴が見えてきました。

新磯小学校入口の交差点を東に向かって集落の奥へいくと曹洞宗の勝源寺があります。勝源寺にはご本尊とは別に青面金剛像があり（写真9）、養蚕の神様として有名でした。勝源寺を訪れ、住職にお伺いしたところ、「明治初年に在職していた名古屋出身の住職が、霜害そうがいや病魔を退散させる力を持つと信仰されていた青面金剛を当時磯部地区で盛大な収入源であった養蚕と結びつけ、養蚕の神様としました。毎年初庚申の日に春祭を開催し、露店が出たり、座間の大神楽を頼んだりして、養蚕を行う人の多くが参詣に訪れ、戦前まで続いた。」そうです。

磯部地区に庚申塔の多い理由は、「明治五年壬申春祭」と彫られていることから、直接証明する資料がないので断定はできないとしても勝源寺の明治5年（1872）の春祭が盛り上がり、多数造立の契機になったことはいかえりません（参考資料「市史ノート第2号 勝源寺の六本庚申と養蚕信仰」）。

（南部班 樽林）



写真6 庚申塔群



写真7 大型の庚申塔



写真8 三猿の三番叟



写真9 青面金剛像

上九沢・下九沢地域の文化財巡り

北部班のメンバー 5 名が厚木城山線（県道 508 号線）近傍に位置する文化財①～⑦を巡りました。平成 30 年（2018）5 月 21 日の初夏のような快晴の日に 9 時半から 12 時まで汗を拭きながらの約 4km の行程でした。以下に各文化財を紹介します。

鳩川の西側に位置するのは①「旧笹野家住宅主屋」と「旧笹野家住宅長屋門」です（写真 10）。いずれも江戸末期～明治初期に建築されたもので、平成 27 年（2015）11 月の国登録の有形文化財（建造物）です。外部からの見学となります。旧笹野家住宅から暫く南下すると、曹洞宗巨福山梅宗寺に平成 23 年（2011）4 月に市登録有形民俗文化財となった②「梅宗寺の百観音」があります（写真 11）。百観音は西国 33 番、板東 33 番、秩父 34 番の計百体から構成されています。観音堂は毎月 18 日の観音様の日に開放されます。当日はお寺のご厚意により住職の説明付きで拝観することができました。①と②の詳細は「さねさし」33 号と 36 号を参照下さい。

芭蕉句碑が二つあります。六地蔵の八坂神社境内の③「下九沢八坂神社の芭蕉句碑」と作の口の私邸内の⑦「下九沢小泉家の芭蕉の句碑」です。いずれも平成 17 年（2005）4 月に市登録有形文化財（歴史資料）となったもので、それぞれ地元の俳人西孤と俳人利角（小泉茂兵衛幸隆）が建立したものです。

また徳本念仏塔も二つあります。平成 16 年（2004）4 月に市登録有形民俗文化財となった④「下九沢六地蔵の徳本念仏塔」と⑥「下九沢宮下の徳本念仏塔」です。④は六つの地蔵と並んで左端側にあり、高さ 43 cm、幅 22 cm の小振りのものです。⑥は高さ 110 cm、幅 38 cm の大きさで、台座正面に「念佛講中」と刻まれています（写真 12）。いずれも宝暦 8 年（1758）紀州生まれの徳本上人が村に授けた「南無阿弥陀仏」の六字名号札を基に村の念仏講中が建てたものです。「南無阿弥陀仏 徳本」の下部に特徴的な花押（鬼殺す心は丸く、田ノ内に南無阿弥陀仏と浮かぶ月影）が刻まれています。徳本は文政元年（1818）10 月 6 日に 61 歳で没しますが、その前年の文化 14 年（1817）11 月 19 日に相模原市の無量光寺を訪れています。相模原市の 23 基の徳本念仏塔はこの年以降に建立されたものです。

最後に紹介する文化財は六地蔵から南下した塚場近くの御嶽神社にあります。昭和 51 年（1976）に神奈川県無形民俗文化財に指定された⑤「下九沢御嶽神社の獅子舞」です（写真 13）。獅子舞は、毎年 8 月 26 日に奉納され、剣獅子・女獅子・巻獅子の三匹の獅子と、鬼形の面をかぶった岡崎、花笠 2 人、笛と唄手十数名により構成され演舞されます。境内にある「獅子舞の碑」の裏面には文政 4 年（1821）に武州多摩郡小留浦村から伝授されたという由来が刻まれています。

（北部班 渡辺）



図 2 上九沢・下九沢文化財巡りマップ（北部班 駿河作成）



写真 10 旧笹野家住宅主屋



写真 12 下九沢宮下の徳本念仏塔



写真 13 下九沢御嶽神社の獅子舞